



西新潟中央病院

NST NEWS 第28号

NST: Nutrition Support Team

発行日：2016年4月12日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線 1303

NST委員会からのお知らせ ～2016年度診療報酬改定について～

2016年度の診療報酬改定において、特別食と栄養指導に関する改定が行われました。当院の診療とも関連の深い内容の改定でしたので、報告させていただきます。



1. 特別食に「てんかん食」が追加

特別食とは糖尿病食や高血圧食などの治療食をいいますが、今年度からこの中に「てんかん食（ケトン食）」が追加され、特別食加算や栄養指導の算定が可能となりました。

昨年度から当院でも一部の患者さんにケトン食の導入を実施しましたが、ケトン食は全てのでんかんに適応となるわけではありません。また脂質の割合が極端に高い特殊な内容であること、材料の厳密な計量が必要なこと、患者さんごとの個人対応が必要になるなどの理由から、複数の方に同時に提供することは難しい状態です。今後の運用について、御理解、御協力の程よろしくお願い致します。

2. 栄養指導の算定対象に「がん」「摂食・嚥下機能低下」「低栄養」が追加

上記疾患は今まで栄養指導料の算定ができませんでしたが、今年度より算定が可能となりました。がんは肺がんを含む全がんが対象であり、摂食・嚥下機能低下は日本摂食リハビリテーション学会の分類に基づく嚥下調整食を要する患者（当院であれば形態調整食を食べている患者）が対象となります。低栄養はアルブミン値が3.0g/dl未満、又は医師が低栄養の改善が必要と判断した患者となっています。当院でも上記に該当する患者さんは多いと思いますので、栄養指導依頼をぜひ頂ければと思います。またこちらからも栄養指導の可否について提案をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

3. 栄養指導料の点数の見直し

上記の改定と合わせて、栄養指導料の見直しも行われました。昨年度まで130点だったところ、初回260点、2回目以降200点と増額されています。

(文責：栄養管理室 澤田周矢)

パーキンソン病患者さんにバナナは良くない？

先月行われたパーキンソン病と薬剤の勉強会で、バナナとレボドパの話題が出たので調べてみました。ラットを対象とした研究（小倉ら、2005）によると、バナナとレボドパの同時摂取により、レボドパの血中濃度が低下することが報告されています。原因としてはバナナに含まれる酵素により、レボドパがメラニンに変化してしまうためではないか、ということでした。

編集後記

先月の3/24(木)にNSTの送別会を行いました。長年に渡りNST、ひいては西新潟中央病院に多大な貢献をされてきた齋藤呼吸器部長と横村看護師長に、感謝の気持ちを込めて花束の贈呈を行いました。

